



2015 年 10 月 28 日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03 - 5475 - 6309
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディコミュニケーション センター

Audi prologue allroad

—Tokyo Motor Show 2015／参考出展車—



- ・コンセプトカーAudi prologue の 3 番目のモデルはあらゆる路面に対応
- ・デジタル技術を究めた革新的なディスプレイ、操作方式を採用
- ・力強い走りと効率を両立したアウディのプラグインハイブリッドテクノロジー

最先端のテクノロジーと日常ユースでの妥協のない実用性、さらに見る人、乗る人を魅了するエレガンス。そうした素晴らしい資質を備えたコンセプトモデルの Audi prologue allroad が東京モーターショーで初公開されることになりました。Coupe、Avant に次ぐ Audi prologue シリーズの 3 番目のコンセプトカーは地上高を拡大することで、すべての路面／走行状況に対応するようにしています。デジタル技術を駆使した革新的な操作方式により、ドライバーとほかの乗員の情報交換も可能にします。また、プラグインハイブリッドのドライブシステムにより、最大 540kW (734PS) のハイパワーと低い燃料消費率を実現しています。

アウディのデザインチームは、Audi prologue、Audi prologue Avant に続くこのモデルで、多様で、エモーショナルで、かつ斬新な、新しいアウディのデザイン言語を示しました。

アウディがこれまで世に送り出した他の allroad モデル同様、Audi prologue allroad も一切の妥協を認めないクルマです。いまから 15 年前、最初の Audi allroad がデビューして、乗用車の新しいジャンルを切り開きました。それは、ラグジュアリークラスの快適性及びダイナミック性能に、ステーションワゴンの多用途性、さらに SUV のオフロード性能まで融合したオールマイティなクルマです。今回東京で展示するスタディモデルは、そうした allroad のテーマに新しい解釈を加えるとともに、アウディデザインの未来もはっきりと明示しています。Audi prologue allroad のデザインは、allroad のコンセプトであるエレガントなスポーツ性とユニークネスが強調されたものになっています。

パワフルでエレガント：サイドビュー

サイドから見ると、全長 5.13m の Audi prologue allroad が、Audi allroad の基本コンセプトを、よりダイナミックな形で再解釈したクルマであることがわかります。長いノーズ、急激に下降し始めるルーフライン、大胆フラットな D ピラーなどにより、スポーティで力感のあるシルエットが生み出されるとともに、allroad コンセプトのエレガンスとダイナミズムが新鮮な形で強調されています。

特徴的なバンパーと張り出したホイールアーチにより、ひと目で Audi prologue allroad のオールラウンドな資質が、わかるようになっています。バランスのとれたプロポーションにより、フロントとリヤのホイールが等しく強調されており、大きく張り出したホイールアーチの内側には、5 アームデザインの 22 インチホイールが納まっています。

「ドゥーアホワイト」のカラーで上品に仕上げられた Audi prologue allroad のボディは、隅々に至るまで、アウディらしい先進性とエレガンスが表現されています。ドアにはアウターハンドルがなく、代わりに、ウインドーを囲むストリップにロック解除のためにセンサーを埋め込んでおり、充電ポートと燃料タンクのカバーも電動で開く方式にしています。ルーフレール、サイドミラーハウジング、及びウイ

ンドー周りには、アルミニウムの仕上げを施しました。ホイールアーチ、サイドシル及びバンパー最下部には、グレーの付加パーツを取り付けました。これにより、クルマの力強さとタフネスが強調され、ボディがより幅広く見えるようになっています。

先進性を表現：フロントエンド

フロントエンドでは、フラットでワイドなシングルフレームグリルが、圧倒的な存在感を放っています。このグリルはボディ外板の曲面と面一になっており、繊細なブラシ仕上げのアルミ製クロスバーにより、Audi e-tron の新しい顔のバリエーションが示されています。ウェッジ型をしたヘッドライトには、マトリクスレーザーのテクノロジーが採用されています。ヘッドライトの光は、限りない数の細密なピクセルにブレークダウンされ、実質上無限のバリエーションで、光を分配していくことを可能にしています。LED ライトによる Audi e-tron を象徴するグラフィックは、バンパーブレードによって 2 分されたエアインレットの上方及び外縁にも描き出されます。

溢れる躍動感：リヤ

Audi prologue allroad のリヤエンドは、幅を絞り、進行方向にむけて軽く角度もついでいて、静止していてもダイナミックなリヤビューが演出されています。ライトの細いストリップが LED を用いた左右のテールライトを結んでおり、3D ガラスで構成されたテールライトのハウジングにより、彫刻的な 3 次元の照明効果が生み出されます。スポーティ感溢れるリヤエプロンの両側には、水平に分割された開口部があり、それが視覚的に、エグゾーストシステムをリヤエンドのデザインに調和させる役割を果たしています。この部分のデザインには、内燃エンジンと電気モーターの効率的連携という Audi prologue allroad のドライブコンセプトが、象徴されているといってもいいでしょう。

広くて開放的：インテリア

エレガントで気品あふれるインテリアを備えた Audi prologue allroad は、日常の移動ツールとしても、レクリエーションの空間としても、完璧なクルマになるでしょう。贅沢なラウンジのような広い室内のなかで、ドライバーと乗員は、ゆったり寛ぐことができます。しなやかなラインとスマートな各部の造形により、広々感、落ち着き、軽やかさといった好ましいイメージが演出されています。真っ直ぐ伸びたセンターコンソールとフロントシートは床から浮いたような印象で、インストルメントパネルは完全に水平な配置となっており、最上部だけドアとひとつながりのラップアラウンドを形成して、キャビンとラゲージコンパートメント全体を囲い込んでいます。また、幅広いエアベントは通常、通風孔が開けられたトリムパネルで覆われており、高いベンチレーション機能が要求される場合のみ、完全に開放される設計になっています。

未来を示唆：インストルメントパネル

Audi prologue allroad のインテリアの基本デザインは、斬新なディスプレイ及び操作方式と完全に融合しています。インストルメントパネルの前面は、両端いっぱいまでディスプレイ面になっていて、そこに 3 つのタッチディスプレイが埋め込まれています。そのうち、ステアリングホイールの左右に広がる「ドライバーディスプレイ」は、アルミのフレームで囲んでいます。助手席乗員は、インストルメントパネルと一体化したワイド画面のディスプレイを使ってインフォテイメントのオプションを選択し、それをさらに、ドライバーディスプレイもしくはステアリングホイールの背後の「オーディバーチャルコックピットフューチャー」に送ることができます。

センターコンソールには、空調、インフォテイメントシステム、及びテキストをインプットするためのもうひとつのドライバーディスプレイが設置されています。有機 LE の技術により、きわめて薄くて柔軟

性に富んだフィルムを用いたこのディスプレイには、明るくコントラストも明瞭な画像が映し出されます。使用していないときは、ディスプレイは格納されて完全にフラットな状態になっていますが、クルマを始動させるとともにコンソールから立ち上がり、ドライバーから見やすい角度に自動設定されます。このコンセプトモデルに搭載されたもうひとつの技術的ブレークスルーは、ドライバーの目前に設置された「オーディバーチャルコクピットフューチャー」です。高解像度ディスプレイと 3 つの半透明ミラーにより、3 つのレベルのバーチャルビジュアルステージが映し出されます。

後席のイノベーション

Audi prologue allroad の後席乗員は、それぞれ独立したシートに座ります。そのシート及び後席の空調、インフォテインメントシステムを調整したり、ドライバーとの情報交換をしたりするときには、センターコンソールの有機 LE ディスプレイを使います。オーディオシステムをスイッチオンしたときには、リヤホイールハウスの内張り部分から「サウンドスポイラー」が姿を現して、上質なサウンドが万遍なく室内に行きわたるようにします。有機 LE のテクノロジーは、フロントシートのそれぞれ背後に収納された 2 つの Audi タブレットにも採用されています。タブレットのボディはきわめて薄く、軽くカーブしています。

Audi prologue allroad は、動き出す前から、ドライバーと乗員に卓越した快適性を提供します。「バトラー」と呼ばれる知的判断力を備えた革新的ソフトウェアプログラムが、所持するスマートフォンの情報から個々の乗員を認識して、その乗員の好みに合うよう、シートや空調システムを調整します。このシステムはまた、オーナーの好みに応じた音楽や走行ルートのおすすめも行なってくれます。センターコンソールの Easy Slot システムにより、スマートフォンを車載のインフォテインメントシステムと連結したり、非接触で充電したりすることができます。

新鮮なマテリアルとカラー

Audi prologue allroad はインテリアのカラー及びトリムの選択でも、快適性とスポーティなエレガンスを強調しています。インストルパネルの上部を「ライフスタイルブルー」で仕上げる一方で、インストルメントパネル下側、及びシート / カーペットには「サンドブラウン」を採用しています。ラップアラウンド、ドア、センタートンネルコンソールには、上質な灰色の天然柾目材を使い、各部にアルミのアクセントを配して力強さを表現しました。

インストルメントパネルの主要な部分、センターコンロールトンネル、及びシートには、天然仕上げのユニカムレザーを使いました。シートのセンターライン上にある工芸的にデザインされたひだは、シングルフレームグリルのバーを彷彿とさせます。アルカンタラを、ドアインサート、アームレスト、及びラゲージコンパートメントの広い範囲に使用しました。

パワーと効率の調和：プラグインハイブリッドのドライブシステム

舗装路ではパワフルな走りを展開し、非舗装路では卓越した走破性能を発揮する。そして常に効率的。Audi prologue allroad のテクノロジーは、ドライバーにこれ以上ない自由なドライビング体験を提供します。

V8 ユニットにツインターボチャージャーを装着した 4.0 TFSI エンジンと、8 速ティプトロニックのハウジングと一体化した電気モーターの組み合わせにより、540kW (734PS) のシステムパワーと 900Nm のシステムトルクを発揮します。そして、その強大なパワーとトルクを、quattro フルタイム 4 輪駆動システムにより、どんな状況においても完璧に路面に伝えます。

このコンセプトカーは0-100km/hを、わずか3.5秒で加速しますが、100km走行あたりの燃料消費量は2.4ℓに過ぎません（プラグインハイブリッドカーに関するNEDC基準での算出値。CO₂排出量に換算すると56g/km）。クルマのリヤの部分にエネルギー容量14.1kWhのリチウムイオンバッテリーを搭載しており、純粋なEV（電動）モードで、最長54kmの距離を走行することができます。アウディが現在市販モデルのために開発しているAWC（Audi wireless charging）テクノロジーにより、Audi prologue allroadは、非接触での充電も可能にしています。

※数字はすべてコンセプトモデル参考値